



〈雑録〉米國ニ於ケル火災保險經驗表編纂事業

瀧谷，善一

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 22(2):320*-331

(Issue Date)

1917-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052663>



米國ニ於ケル火災保險經驗表編纂事業

商學士 瀧 谷 善 一

米國火災保險業者ハ一九一五年一月一日ヲ以テ米國、否世界ノ何レノ國ニ於テモ火災保險ノ經營上未ダ嘗テ試ミラレタルコトナキ大規模ノ新事業ニ着手シタリ。新事業トハ何ゾヤ。火災保險業者ガ其營業上ノ經驗ヲ集メテ一定ノ標準ノ下ニ之レヲ分類シ、各分類毎ニ火災保險ノ原價ヲ算出シ、コレニ基キテ公平ナル保險料ヲ制定セントスル計畫是レナリ。

生命保險ニ在リテハ既ニ早ク一八三八年ニ於テ英國十七會社ノ營業上ノ經驗ニ基キ一ノ死亡生殘

表ハ作成セラレタリ、爾來英、米、佛、獨、日等ニ於テモ亦各其經驗ニ基キ死亡生殘表ノ編成ヲ遂ゲタリ。火災保險ニ在リテモ個々ノ會社ガ其經驗ニ基キテ稍精密ナル分類の統計ヲ編成シ、又ハ保險料ノ協定ヲ爲ス會社ガ或特殊ノ被保險物ニ關シテ其共同ノ經驗ヲ統計シテ火災ノ原價ヲ算定スルコト珍シカラズ。(本年一月發行保險評論所載拙稿「火災保險利率問題根本的解決策」參照)然レドモ協定ニ加入スルト否トヲ問ハズ、株式會社タルト相互會社タルトヲ論ゼズ、殆ンド總テノ保險業者ガ總テノ被保險物ニツキテ其經驗ヲ提出シテ詳細ナル分類の統計ヲ作ルニ着手セルハ今回米國ニ於ケル此舉ヲ以テ嚆矢トス。

二

先ヅ、此計畫ノ沿革ヲ述ベンニ、事ノ起リハ一九一二年五月紐育州ノ保險監督官エメット氏ガ同州ニ於テ營業スル總テノ火災保險業者ニ對シ一九〇〇年乃至一九一一年間ニ於ケル紐育州内ニ於ケル被保險物ノ分類の統計ヲ提出スルコトヲ要求セルニ在リ。由來、米國ニ於テハ火災保險料ハ一般ニ甚ダ高く、且ツ、同一種類ノ被保險物モ土地ニ依リ、人ニ依リ其料率ニ非常ナル差異アリシヲ以テ、火災保險業ニ對シテ批難ノ聲ヲ放ツ者尠カラズ。從ツテ此輿論ニ動カサレテ保險料ハ高キニ失セズヤ、甲ノ被保險物ト乙ノ被保險物トノ間ニ料率ノ公平ガ保タレツ、アルヤヲ檢センガ爲メニエメット氏ガ前述ノ如ク其材料ノ供給ヲ保險業者ニ要求シタル次第ナリ。

茲ニ於テ火災保險業者ノ團體タル全國火災保險業者協會(National Board of Fire Underwriters)ノ主催ニテ紐育州ニテ營業スル火災保險會社ガ會合ヲ催シ、此種ノ要求ニ應ズルコトハ非常ナル費用ヲ保險業者ニ負ハシメ、而モ現行料率ヲ説明スル目的ノ爲メニハ多クノ利益ナカルベキコトヲ當局者

ニ陳情シタリ。

然ルニ此問題ハ單ニ紐育州ノミノ問題ニ非ズ。又紐育州丈ケニテ解決スルコト困難ナル事情アリシカバ之レヲ各州ノ保險事務官會議(National Convention of Insurance Commissioners)ノ問題トナシタリ。此ニ於テ此會議ハ前記エメット氏ヲ委員長トスル委員ヲ設ケテ此問題ヲ研究セシメタリ。

米國ニ於テハ保險事業ハ州政府ノ監督ニ屬ス。從ツテ保險ニ關スル立法ハ各州同一ナラズ。從來火災保險會社ハ毎月又ハ夫レヨリモ屢多クノ州ニ對シ、内容、形式共ニ異ナル損害統計ヲ報告スルノ煩勞ヲ嘗メツ、アリシガ、一九一三年七月ノ全國保險事務官會議ニ於ケル討議ニ照シ紐育州以外ニモ或種ノ形式ニ於テ火災保險業者ノ共同的經驗表ヲ提出セシメントスル州アル模様アリ。此事愈實行セラル、曉ニハ保險會社ノ手數費用非常ナルベキヲ慮リ、且ツハ州政府ノカ、ル態度ヲトルハ從來採用セラレツ、アル料率ガ實際ノ經驗ニ根據ヲ置カザルニ基クヲ以テ寧ロ經驗ニ基ク料率表ヲ作ルコトニヨリテ、保險業者ガ自發的ニ此問題ノ根本的解決ヲ爲スニ若カズトナシ、當時ノ全國火災保險業者協會副總裁リチャーズ氏(E. G. Richards)ハ一九一三年十二月十一日付ヲ以テ協會ノ常務委員ニ對シ速ニ委員ヲ設ケテ左記ノ事項ヲ調査スベキコトヲ提議シタリ。

一、合衆國ニ於ケル火災危險ノ分類ノ標準ヲ定ムルコト。

二、一定ノ分類ニ依リ保險金額ヲ報告セシムル書式ヲ定ムルコト。

三、一定ノ分類ニ依リ損害填補額ヲ報告セシムル書式ヲ定ムルコト。

四、出來得ルナラバ、各社ノ經驗ヲ前記分類ニヨリ編成シテ社會一般ガ學理的ナリト認ムベキ料

率表編纂ノ考案ヲ立ツルコト。

五、全國火災保險業者協會ニ統計局委員(Actuarial Bureau Committee)ヲ置キ、此新事業ノ實行ニ關スル考案ヲ立ツルコト。

此提議ハ直チニ協會ノ常務委員ノ採用スル處トナリ、リチャーズ氏ヲ議長トスル七人ノ委員ニ調査ヲ託セラレタリ。此ニ於テカ經驗表作成事業ハ紐育州保險監督官對在紐育保險會社ノ問題ヨリ全國保險事務官會議對全國火災保險業者協會ノ問題ト變ジタリ。

上述ノ如クリチャーズ氏ノ提案ニヨレバ經驗表作成ニ關シ爲スベキ大事業ニ三アリ。卽チ

一、損害統計ノ編成

二、保險契約統計ノ編成

三、前記材料ニヨル保險料率表ノ編纂

是レナリ。委員ハカ、ル大事業ヲ同時ニ創ムルコトハ大ナル混亂ヲ各保險會社ノ營業ニ及ボスノミナラズ、一時ニ費用ト勞力トヲ各會社ニ負擔セシムルトキハ此事業ニ參加スル者少ナカルベキヲ慮リタルト、斯ル創始の大事業ノ失敗ナキ遂行ニハ先ヅ以テ相當ノ經驗的準備ヲ要スルヲ認メタルト、各州保險事務官竝ニ火災監察官(Fire Marshal)ニ對スル懸引上ノ關係アリタルト(コレハ余ノ推測ナリ)ニヨリ先ヅ、此計畫ノ第一着手トシテ損害統計ノミヲ探ルコトニ決セリ。コレガ爲メニハ先ヅ第一ニ統計ニ關スル標準竝ニ書式ヲ作ルコトヲ要シ、第二ニ保險事務官竝ニ火災監察官ト交渉ヲ遂ゲ此統計編成後ハ從來州内ノ各保險會社ヨリ個々別々ニ損害統計ノ提出ヲ命ジ居タル州ニ於テハ此保險業者協

會ノ統一の統計ヲ以テ各社ノ統計ニ代フルコト、スル聲明ヲ得ザルベカラズ。若シ然ラズシテ各州ハ別々ニ從來ノ通り相異ナレル内容及ビ形式ノ損害統計ヲ各社ヨリ要求スルニ於テハ各保險會社ノ負擔竝ニ手數到底堪ユベカラズ、爲メニ此計畫モ賛成スル者少ナカルベク結局廣汎ナル經驗ヲ集ムルコト困難トナルベケレバナリ。從ツテ委員ハ屢會合ノ結果、一方ニ於テ一九一四年八月被保險物分類表 (Classified List of Occupancy Hazards) 及ビ損害報告票 (Loss Report Form) ヲ作成シ他方ニ於テハ全國保險事務官會議竝ニ北米火災監察官協會 (Fire Marshals Association of North America) ト交渉シ其賛成援助ヲ受クルノ聲明ヲ得タリ。

是ニ於テ一九一四年十月二十九日火災保險業者協會ノ臨時總會ヲ開キ委員ノ報告ニ基キ前記被保險物分類表及ビ損害報告票ヲ同協會ノ標準トシテ採用スルコト、各會社ガ一樣ニ此分類竝ニ書式ヲ使用スルコト、一九一五年一月一日又ハ其後出來得ル限り速ニ同協會内ニ統計局 (Actuarial Bureau) ヲ設ケ統計局委員ノ管理ノ下ニ經驗表作成ノ事務ヲ掌ラシムルコト、コレニ要スル經費ハ保險料收入ノ割合ニ應ジテ各社分擔スルコト、協會々員以外ノ保險業者ニテモ最初ヨリノ經費分擔額ヲ釀出スルトキハ此事業ニ參同スルヲ得ルコト等ヲ決議セリ。カクテ統計局ニテハ一九一五年ヨリ其事業ヲ開始シ先ヅ第一ニ損害統計ノ編成ニ着手スルニ至リシナリ。

三

今其計畫ノ大要ヲ記述センニ此計畫ニ參同セル保險業者ハ一九一五年一月一日以後保險金ノ支拂ヲ爲シタル保險契約(再保險者ノ契約ハ此限ニ非ズ)ニツキ總テ所定ノ報告票ニヨリ之レヲ統計局ニ報告スルコトヲ要

ス。損害報告票ニ記載スベキ事項左ノ如シ。

一、報告會社名

二、報告會社ノ損害填補番號

三、被保險者ノ氏名

四、損害填補ニ關係アル會社數

五、保險ノ目的ノ所在地並ニ所在階數

六、保險ノ目的ノ所在州名及ビ市名

七、火災ノ年月日

八、火災ノ原因及ビ原因番號

九、保險ノ目的ノ種類番號

(建物
動産)

十、報告會社ノ保險金額

(但シ再保險ニ附シタル金額ヲ控除セズ)

(建物
動産)

十一、報告會社ノ支拂保險金額

(但シ再保險者ヨリ填補セラルシ金額ヲ控除セズ)

(建物
動産)

十二、火災發生ノ際保險ノ目的ニ附セラレタル總保險金額

(建物
動産)

十三、保險ノ目的ノ火災發生當時ノ價額

(損害填補ノ爲メニ爲サレタル評價ニ據ル)

十四、損害ヲ受ケタル財産ノ價額

(保險ヲ附シアルト否トヲ問ハズ)

右ノ内(八)火災ノ原因ニツキテハ火災保險業者協會ハ之レヲ二十八ニ分類シ此報告票ニハ火災ノ原因ト共ニ此分類番號ヲ記入スルコト、シ火災ノ原因別ニヨル統計ノ分類編成ニ便セリ。而シテ別

ニ火災原因表ニハ火災ガ(一)被保險者ノ占有場所ヨリ起リシヤ、(二)同ジ建物内ノ他人ノ占有場所ヨリ起リシヤ、(此場合ニハ其他人ノ職業番號及ビ占有場所ノ階數ヲ記ス)若クハ(三)被保險者ノ占有スル建物以外ノ建物ヨリ起リシヤ(此場合ニハ此「他ノ建物」ヲ記載スルコト、セリ。又(九)保險ノ目的ノ種類番號トハ火災保險業者協會ニテ定メタル既述ノ被保險物分類表ニヨル其所屬番號ヲイフモノナリ。此分類表ハ職業及ビ内容物ノ性質ニヨリ總テノ被保險物ヲ四三〇ニ分チタルモノナリ。例ヘバ普通住宅ハ九號、病院ハ二三號小賣商店ノ建物ハ一〇九號、電話交換局建物ハ一九一號、煙草倉庫建物ハ二七五號、「セメント」工場ハ三六八號、生絲工場ハ四九四號、劇場ハ九五八號トイフガ如シ。之レニ據リテ數限リナキ被保險物ヲ各社共通ノ標準ニヨリテ分類シ同一種ノ危險ヲ有スル被保險物ニ關スル經驗ヲ多數ニ蒐集セントスルモノナリ。

上述ノ如キ損害統計ヲトル目的ハ三アリ。一ハ保險ノ目的ノ各種ニツキ火災ノ原因ヲ究メコレガ防止ニ關スル完全ナル研究資料ヲ得ルコトナリ。二ハ保險金請求者名簿ヲ作り保險金ノ詐取ヲ防グニ在リ。三ハ即チ保險金額統計ト相俟チテ各種ノ被保險物ニ對スル保險原價ヲ算定スルコトナリ。此三者ハ共ニ火災保險ノ經營上甚ダ重要ナルモノナリ。

四

次ニ統計局ガ今日マデ成シタル仕事ヲ記サンニ、上記ノ計畫ニヨリ統計局ニ損害報告票ノ提出アリタルモノ一九一五年中ニ六十五萬件、一九一六年ハ五月一日マデニ二十四萬六千餘件アリ。此割合ニテ進マバ、一九一六年丈ニテ百萬以上ノ損害報告票ハ集マルベキ見込ナリトイフ。

統計局ニテハ一々此報告票ニ不備、誤記アリヤ否ヤヲ正シ、コレヲ分類「カード」ニ移シ、一九一五年中ニ集メタル「カード」ニツキテハ各州別々ニコレヲ別チ其各ヲ保險ノ目的ノ種類別ニ從ヒ且ツ其建築竝ニ防火設備ノ如何ニヨリテ更ニ之レヲ細分シ、其各ニツキテ火災ノ原因別ニ之レヲ分類統計シタリ。サレド此年ニハ未ダ參同セル會社數モ今日ノ如ク多カラズ、且ツ、報告セラレザリシ損害件數モ報告セル件數位アリタルヲ以テ、此各州別ノ分類統計ハ大ナル經費ヲ投ジテ迄、印刷スルノ價值ナシト認メラレ出版ハ見合ハセラレタリ。只此材料ニヨリ米國全體ニ互ル火災ノ損害ノ原因別竝ニ建築別ニヨル分類統計ノ編成ヲ爲スコト、シタリ。

統計局ハ別ニ保險金請求者名簿ヲ備ヘ、保險金請求者名ヲ其姓名ニヨリ又地方別ニヨリテ「カード」ヲ以テ「アルファベット」順ニ排列整理シタリ。各「カード」ニハ（一）被保險者ノ姓名、（二）保險

ノ目的ノ所在地、（三）火災ノ年月日、（四）保險ノ目的ノ種類（職業又ハ貯藏品）（五）建築、（六）火災ノ原因、

（七）損害額概算及ビ（八）保險金支拂ニ關係アル會社數ヲ記入シタリ。今日マデニ此名簿ニヨリテ過

度ノ保險金ノ請求又ハ詐欺の保險金ノ請求ヲ發見セルコト少ナカラズ。火災保險業者協會ノ年報ニハ此種ノ例ヲ多ク掲ゲアルガ（Proceedings of the Annual Meeting of the National Board of Fire Underwriters, 1916, p. 146-149.）今其一例ヲ掲ゲンニ、一九一

四年十二月二十一日ノ火災ニ對スル損害填補金支拂ノ報告票ニ關シ被保險者ノ姓名、保險ノ目的ノ所在地、階數、被保險物件ノ同一ナルモノニアリ、其保險金額竝ニ損害填補額ハ同一ナラズ、又其各報告票ニハ其損害ニ關係アルハ其會社ノミナルコトヲ記載シアリシモ、統計局ニテハ不審ヲ抱キテ兩會社ニコレヲ照會セシニ、全ク同一損害ニツキ保險會社ハ互ニ他ノ保險アルコトヲ知ラズシテ

過當ノ損害金ノ支拂ヲ爲シタルコトヲ知り得タリトイフ。此制度ガ發達スル時ハ被保險者ノ道德的危險ヲ少ナカラシムル上ニ於テ大ナル効果アルベシ。

統計局ハ各州ノ火災損害統計ヲ編成シ從來各保險會社ヨリ別々ニ損害統計ノ提出ヲ命ジ居タル州ニ對シ統一的ノ損害統計ヲ供給シ、又火災監察官ガ特ニ調査ヲ要スト認メタル損害ニツキテハ當局者ニ必要ナル報道ヲ與フルコト、ナリ居レリ。而シテ、全國保險事務官會議竝ニ北米火災監察官協會ハ此統計局ノ提出スル損害統計以外ニ從前ノ如ク別々ニ各會社ヨリ損害統計ヲ要求スルコトヲ廢止スルニ決セリ。從ツテ、此統計局ノ設置セラル、迄ニハ各保險會社ガ十六州ニ別々ノ内容ト形式トノ損害報告ヲ爲サルベカラザリシモノガ、今日ニ於テハ其數減少シ、直接各會社ヨリ損害ノ報告ヲ爲スコトヲ要求スルモノテキサス州ノミトナリ、外ニ假報告ノ提出ヲ要求スル州ハインディアナ州ノミトナルニ至レリ。各州ノ此點ニツキテノ態度如何ハ本經驗表作成事業ノ成否ニ大ナル關係アルモノナリ。

此事業ニ要スル經費ハ此計畫ニ參同セル保險業者ガ保險料ニ應ジテ分擔スルモノニシテ、一九一五年四月三十日ニ終ル協會會計年度ニ於テハ總保險料(保險料總收入中ヨリ解約返戻保險料ヲ控除セルモノ)ノ五千分ノ一ヲ賦課セリ。此金額五萬九千餘弗ハ一九一五年中ノ經費ヲ支辨スルニ足レリ。而シテ一九一六年ノ經費トシテ協會ハ參同會社ノ正味保險料收入ノ四千分ノ一、此金額六萬六千弗ヲ徵收スル筈ナリ。

各會社ハ此經費ヲ負擔スル外、此事業ノ爲メニ損害統計ヲ統計局ニ報告スルノ手數及ビ經費ヲ要シ、且ツ從來各會社ガ作り居タル統計ノ分類方法ノ代リニ此協會所定ノ分類方法ヲ採ラザルベカラ

ザル等營業上ノ負擔ヲ受クルコト大ナレド、多クノ州ノ保險事務官ハ其管内ノ保險業者ニ此事業ニ參同スルコトヲ勸告セル結果、加入會社ハ一九一五年五月ニハ百八十四社(此内百十三社ハ協會員、四十社ハ非協會員、三十一社ハ相互會社)ナリシモノガ一九一六年五月ニハ二百三十六社(此内百二十五社ハ協會員、五十九社ハ非協會員、五十二社ハ相互會社)トナリ、殆ド總テノ會社ヲ網羅シタリ。

五

カクノ如ク損害統計ノ作成ハ已ニ着手セラレ、多數ノ保險會社ハコレニ參加シタレバ數年ニシテ未ダ嘗テ無カリシ位ノ精密正確ナル統計ヲ得ラルベク、其結果、火災ノ原因ヲ究メ得テ防火上ニ貢獻スル處大ナルベク、又保險金請求者原簿作成ニヨリテ道德的危險ヲ減少スルノ効多カルベキナリ然レドモコレハ本事業ノ目的ノ總テニハアラズ、本事業ノ眼目ハ被保險物ノ種類ニ應ジテ精確ナル共同經驗上ノ保險原價ヲ算定シ、此基礎ノ上ニ各被保險者ニ公平ニシテ保險料ノ構成ヲ數字ヲ以テ説明シ得ベキ料率表ヲ編纂スルニ在リ。コレガ爲メニハ協會ハ更ニ進ミテ保險契約統計竝ニ理想的料率表編纂ノ事業ニ從事セザルベカラズ。

保險契約統計ニツキテハ其統計ニ載スベキ事項竝ニ形式ニツキ研究ヲ重テラレタルモ、未ダ満足ナル考案ヲ得ルニ至ラズ。從ツテ現今ハ協會トシテハ未ダ此統計ノ編成ニ從事セズ、協會ハ單ニ各會社ガ任意ニ此種ノ統計ヲ作ル場合ニハ協會ニテ定メタル被保險物分類表ニ據ルベキコトヲ其會員ニ勸告シタリ。而シテ各會社ガ個々ニ此ノ分類法ニ從ヒ保險金額統計ノ作成ニ從事ストイフ。然レドモ協會トシテ此種ノ分類の保險契約統計ヲ作ルニ至ルコト遠カラザルベシ。

カクテ前述ノ損害統計竝ニ保險契約統計ニヨリ十年内外ノ各社ノ經驗ヲ編成スルトキハ個々ノ危險ノ種類毎ニ其保險金額ニ對スル損害額ノ割合ヲ知ルコトヲ得ベク、從ツテ經驗上ノ數字ヨリ各職業又ハ各地方ニ對スル保險原價ヲ算定スルコトヲ得ベシ。

上記ノ方法ニヨリテ綿絲紡績工場ノ損害率ハ千分ノ一タルコトヲ知リタリトセン。然ルニコレハ一般綿絲紡績工場ノ損害率ナルガ、綿紡績工場ノ何レノ二ヲトルモ其所在、建築、工場ノ規模、工程、外圍ノ事情、防火消火設備ノ細目ナル點ニ互リテ同一ナルモノナク、皆多少異ルヲ以テ、此等ノ危險ノ差異ヲ細密ニ考量シテ公平ニシテ説明シ得ベキ料率ヲ編纂スルニハ如何ナル方法ヲ採ルベキヤ。コレ學理的料率ヲ決定スル上ニツキ甚ダ重大ナル問題ナリ。前記リチャーズ氏ハ此點ニツキテモ所謂 Experience Grading and Rating System ヲ公表シタルド、協會トシテ未ダ決定セル計畫ヲ有セズ。コレ等ハ猶熟議ヲ要スルコトニテ其實行マデニハ相當ノ年月ヲ要スルコトナラン。

初メ一九一二年紐育州保險監督官ガ紐育州ニ營業スル保險會社ニ其分類經驗表ノ提出ヲ命ジタルトキハ此材料ニヨツテ其現行ノ保險料率ノ公平ナルヤ否ヤヲ檢セントシタルナリ。然ルニ火災保險業者協會ハ保險監督官ノ要求スルガ如ク保險料ノ分類の統計ヲ作ルコトハ被保險物件中利益アルモノヲ外間ニ暴露スル結果トナリ各州政府ハ必ズコレガ引下ゲヲ強要スベキニ反シ、損失アルモノニツキテハ料率ノ引上ヲ肯セズ結局保險會社ノ利益ニ反スベキヲ慮リテコレヲ作ルコトヲ好マズ、單ニ損害統計及保險契約統計ニヨリテ損害額ト保險金額トノ割合ヲ分類のニ統計スルコトニ同意シタルナリ。故ニ此經驗表作成事業ハ實ニ過去及ビ現在ノ料率ノ公平ナルヤ否ヤヲ檢セントスルニ非

ズシテ、將來ニ於ケル公平ナル料率ヲ算定セントスルモノナリ。若シ幸ニシテ此等ノ經驗表ガ作成セラレ、此レヲ基トシテ學理的ナル料率表ガ編纂セラル、ニ於テハ火災保險界ニ新ナル生面ヲ開クモノナリト謂フベク、斯業ノ參考トナルコト大ナルモノアルベシ。故ニ余ハ此事業ヲ紹介シテ火災保險ノ研究又ハ實務ニ従事スル者ニ對シ本事業ノ經過ニツキ注意ヲ促スモノナリ。若シ夫レ前記G. R. Schedule ニツキテハ別ニ紹介スル機會アルベシ。(大正六年一月十四日稿)

附言 本稿ハ余ガ實際見聞セシ所ト左記ノ出版物ヲ參考シテ記述シタルモノナリ。文中「現今」トアルハ一九一六年五月二十五日ナイフナリ。

Proceedings of the Annual Meeting of the National Board of Fire Underwriters 1914, 1915, 1916.

Proceedings of the National Convention of Insurance Commissioners 1913, 1914, 1915.

E. G. Richards: Experience Grading and Rating Schedule, 1915.

R. Biegel: Fire Insurance Rates, The Quarterly Journal of Economics, August 1916.